

「土々呂中学校 長寿命化改良事業の概要」についてのご意見一覧及び回答

意見数11件

No	意見	本市の考え方・対応
1	<p>土々呂地区の小学生もかなり減ってきていますが、例えば土々呂小学校と一ヶ岡小学校を合併し、余った校舎に土々呂中を移転するなどは出来ないのでしょうか。 (土々呂中が海から近く南海トラフ地震による津波の際に避難にかなり時間が掛かる事が不安である)</p>	<p>学校の校舎や移転は、各ご家庭のご意見の調整が必要であるとともに、予算も時間も相当かかる上、毎日の授業を止めることなく行うにはどうするかなど、大きな課題があります。また、土々呂中学校自体はこれからも必要ですが、現在のままでは生徒の安全上の懸念などが解決されません。そのため工事は是非とも必要であると考えております。</p> <p>なお、本市における今後の学校施設のあり方については、今後の児童生徒数の推移を見定めながら、土々呂地区のみならず市内全体で議論を重ねていく必要はあると認識しておりますので、今後の参考とさせていただきます。</p>
2	<p>概要を拝見させていただきました。 学校関係者の安全・安心の確保、また、避難場所としての機能強化は必要不可欠と思います。 大切な税金を使うのだから予定通りに事業を進め、後で追加、修正が無い様にして頂きたいです。</p>	<p>事業の実施に対し、実際に施設を使用する学校関係者や地域の方々と協議を重ね、設計内容に反映させております。今後も無駄が生じないよう配慮を行いながら、進捗を図ってまいります。</p>
3	<p>生徒の皆さんが快適に過ごせるようになるのであれば、お金をかけて改良工事をして良いと思う。しかし、延岡は住民税が高く住み難いともチラホラ言われているので、あまりお金をかけすぎるとも良くないのでは。と思いました。 最低コストに押さえたうえで改良工事をどのようにするのか検討して頂きたいです。</p>	<p>事業の実施に対し、実際に施設を使用する学校関係者や地域の方々と協議を重ね、設計内容に反映させております。今後も無駄が生じないよう配慮を行いながら、進捗を図ってまいります。</p> <p>なお、税金は国の法律に基づいた全国的な制度ですので、「延岡は住民税が高い」というご指摘は事実ではありません。</p>
4	<p>特に意見はありません。</p>	<p>※回答無し</p>
5	<p>児童数の減少や財政状況を考えると、建て替えよりも施設のリニューアルの方が良いかと考えます。 地震による津波災害の時の児童の安全を図る設備を備えて頂きたいです。また、災害時の水や食料の備蓄拠点としての機能も備えて頂きたいと思います。</p>	<p>災害時の避難誘導が円滑にできるよう、誘導標式の整備や施設内の避難導線に配慮しながら整備に努めます。 土々呂中学校は、風水害時の避難場所として校舎の3階を利用してもらうように指定されており、災害用マット・災害対策非常用備品等が配備されています。</p>
6	<p>本件に関して、今般の能登半島地震の惨状を見て考えさせられたことがありましたので以下申し述べます。 ①住民の避難場所として活用するケースが想定されるのでその際の ・告知および避難誘導の実行 ・高齢避難者対策 ・物資、備蓄、搬入対策 ・季節（特に夏・冬）対策 に関する諸仕様・スペース・設備等を改良事業の中に盛り込んでおいたらいいのではないかと。 ②併せて、当中学校の最大震度予測値下於ける耐震性と耐久性を公表・明示しておく。以上です。</p>	<p>学校施設は、児童生徒が毎日通う学習及び学びの場として、また教職員の働く場として、良好な環境条件を確保するとともに十分な防犯性、安全性も備えた施設環境を形成することが重要であると考えておりますので、まずは、そのような仕様、スペース、設備等を念頭に改良事業を進めてまいります。</p> <p>そのうえで、住民の方が学校施設を緊急の避難場所として活用する際の、ご指摘いただいたような事項等については、危機管理部門の方で計画や対策等をまとめておりますので、市民の皆さんへ啓発活動を一層行うように努めて参ります。</p> <p>気象庁のホームページでは、南海トラフ巨大地震について、宮崎県の一部において震度7と想定されていますが、本校舎につきましては、耐震性については建築基準法に基づき、震度7クラスの地震が来ても倒壊しないよう、耐震補強がされています。耐久性については、長寿命化改良工事にて外装材・屋根防水材の更新や断熱化の為の工事や断熱二重サッシへ改修を行ってまいります。</p> <p>なお、現在の土々呂中学校は、風水害時の避難場所として校舎の3階を利用してもらうように指定されており、災害用マット・災害対策非常用備品等が配備されています。</p>

「土々呂中学校 長寿命化改良事業の概要」についてのご意見一覧及び回答

延岡市教育委員会総務課

No	意見	本市の考え方・対応
7	<p>校舎建替えは、財政負担が多大としか…改良事業との差額を知りたいです。 今（時代）の少子化に合った大きさの校舎にしては!? 建て替えとの差額があまりに大きければ改良事業案は良いと思います。</p>	<p>現在、新築を行う際の建設費用は、近年の物価資材費の高騰や労務費単価の上昇など、年々価格は上昇しております。来年度の建設費用の概算を試算してみますと、今回対象となる校舎と同規模のものを建設した場合、およそ17億7千万円程度と予測いたします。今回長寿命化を行う場合と比較しますと、およそ1.5倍の費用が掛かる試算となります。</p>
8	<p>55年経過していますが、後何年使用する予定なのでしょうか、耐震性があるから大丈夫なのでしょうか、海に近いという立地条件で、塩害を考慮しているとは思いますが、コンクリートの劣化は進みます、東日本や能登半島と同等の震災が起きた時、コンクリートの剥がれや落下は大丈夫なのか、避難所として使用出来るのか、疑問に思います。 耐震診断は建物の倒壊を判断するもので、災害後、使用出来るかどうかの判断ではないはずですが。 また、コンクリート亀裂補修を行っても、コンクリート自体は、塩害を55年以上受けたコンクリートであることには変わりないと思います。定期的な点検が必要と思われる。</p>	<p>これまでは、一般的に60年が耐用年数と呼ばれる、鉄筋コンクリート校舎については、建替え中心の事業を進めてまいりましたが、今後、昭和40年代に建築された校舎が一斉に建替の時期を迎えることとなります。 全ての校舎を建替で対応するのは、多額の費用を要し困難なことから、躯体の状態が健全な築40～50年の学校施設においては長寿命化などの考えのもと、80～90年を目標使用年数と設定し、計画的に大規模な改修工事を実施することとしています。（令和3年3月12日から3年3月31日にかけて、パブリックコメントを行いました。） 本市では、このような考えをもとに、パブリックコメントを経て、令和3年3月に「延岡市学校施設等長寿命化計画」を策定しておりますので、今後、この計画に基づき、施設の適正管理に努めていきますとともに、定期的な点検も行っていきます。</p>
9	<p>今後の長寿命化計画の詳細は分かりませんが、少子化で学生数が少なくなっていく中で、学校の統廃合、小中一貫校を検討し、学校数を絞り、少子化を見込んだ新設校舎を建設した方が、多くの施設を残した時の、改修維持管理費を考えると、金額を抑えられると思います。ただ、廃校にしたとしても、学校は災害時の避難所となることを考慮しなければならないと思います。</p>	<p>学校の校舎や移転は、各ご家庭のご意見の調整が必要であるとともに、予算も時間も相当かかる上、毎日の授業を止めることなく行うにはどうするかなど、大きな課題があります。また、土々呂中学校自体はこれからも必要であります。現在のままでは生徒の安全上の懸念などが解決されません。そのため工事は是非とも必要であると考えております。 なお、本市における今後の学校施設のあり方については、今後の児童生徒数の推移を見定めながら、土々呂地区のみならず市内全体で議論を重ねていく必要はあると認識しておりますので、今後の参考とさせていただきます。 また、閉校した校舎の市避難所としての指定については、それぞれの建物のその時の状況に応じて考慮していきます。</p>
10	<p>仮設校舎に多くの予算がついていますが、工事の範囲を区画割し、空き教室を有効利用して、仮設校舎を建てない計画は（又は必要最低限）、出来なかったのでしょうか。工期の延長は必要となりますが。</p>	<p>多くの児童生徒が一日の大半を過ごす学校施設は、集団生活の場としても重要であり、その場所を確保するためには、仮設校舎等が必要であります。どうしても規模が大きいため、仮設校舎の工事費等はかかってしましますが、ご理解をいただきたいと思っております。 これまでの設計の過程で、既存の近隣公共施設を利用した分散管理方式も検討は行いましたが、離れた場所で教育活動を行うことは、児童生徒や保護者の皆さん及び教職員にも多大な負担がかかるため、最終的には、同校内に仮設校舎を建設し、学校の一体運営を図る形を選択する必要があるとの結論となったところです。 また、空き教室利用の検討も行いましたが、工事対象校舎内で使用している普通教室や特別教室の数を、校内の他の建物で確保することは困難でありました。</p>
11	<p>子供達の安全の為の改修は賛成です。</p>	<p>今後も無駄が生じないよう配慮を行いながら、進捗を図っていきます。</p>